

■天文館地区における自転車走行空間の試行整備結果

1. 整備の概要

「自転車で走りやすいまち・かごしま」を構築するため、天文館地区の市道において、自転車走行空間を試行的に整備し、安全性や走行性等の効果検証を行った。

【主な目的】

- 市営自転車等駐車場へアクセスする自転車走行空間を整備することで、歩行者・自転車・自動車の安全な通行環境の確保を目指す。
- 自転車の通行ルール（車道通行が原則）を誘導・周知する。

【期待される効果】

- 自転車と自動車が相互に通行ルール・マナーを守ることによって、歩行者の安全性の向上が図られる。

【実施期間】

平成 24 年 10 月より順次供用開始

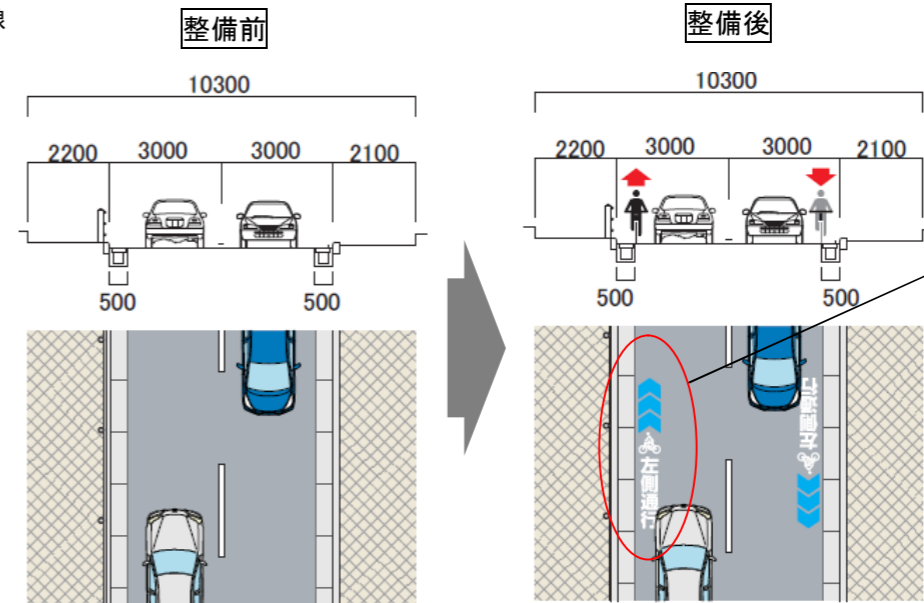
【実施区間】



【整備内容】

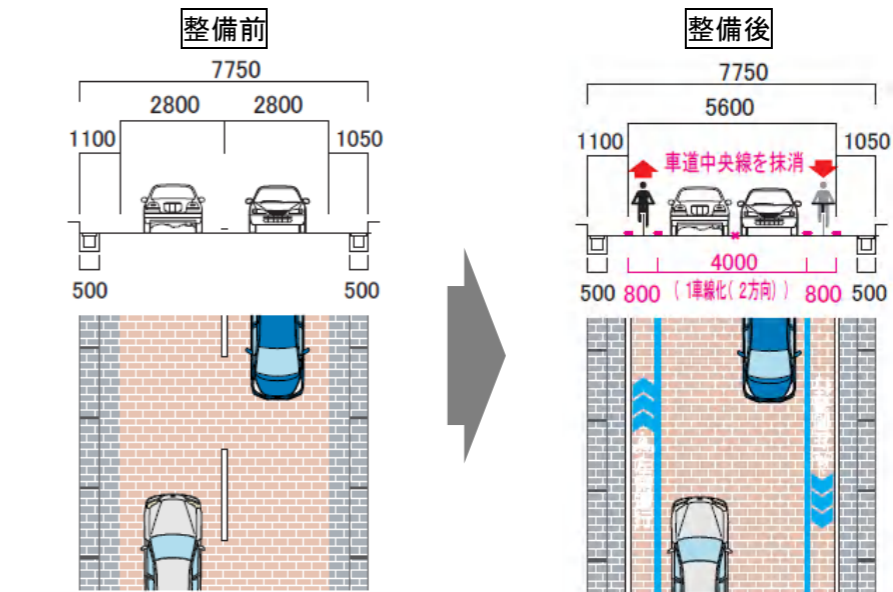
〈歩道がある場合〉

- ・天神馬場2号線
- ・二官橋3号線
- ・二官橋4号線

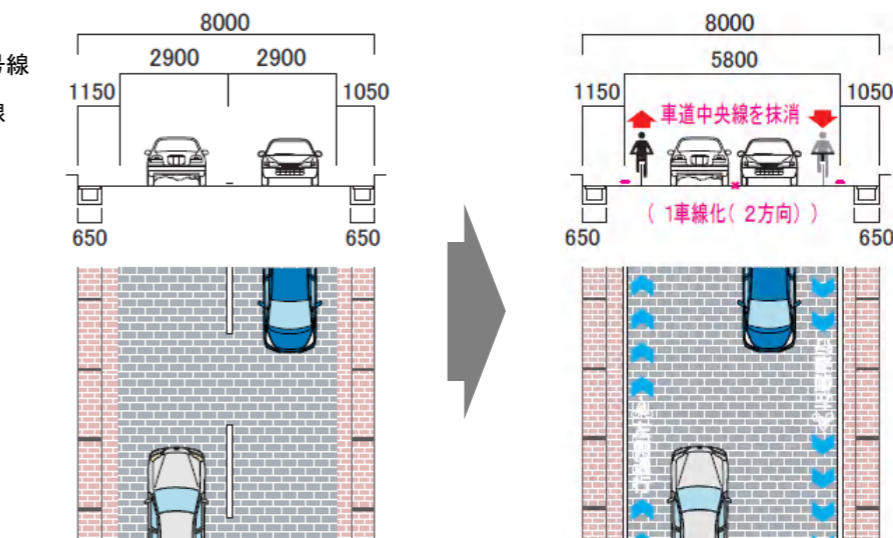


〈歩道がない場合〉

- ・ザビエル線



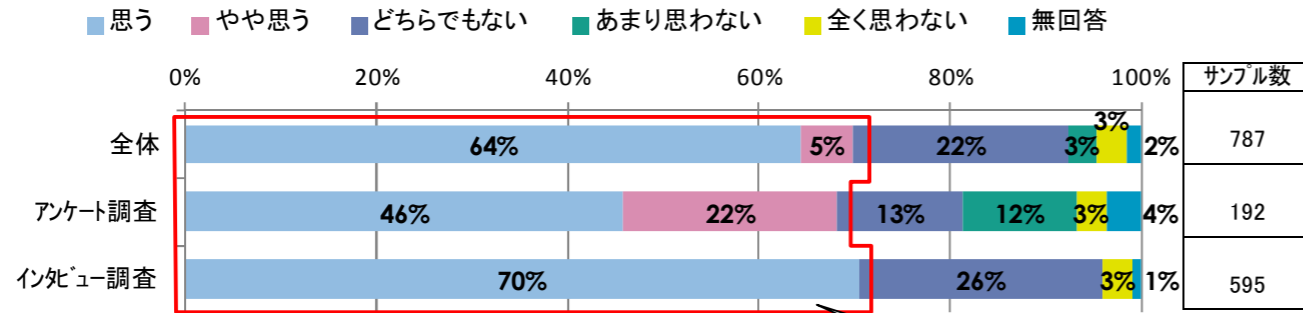
- ・二本松馬場2号線
- ・萩原小路2号線



2. 試行整備の結果

(1) 自転車通行ルールの周知効果

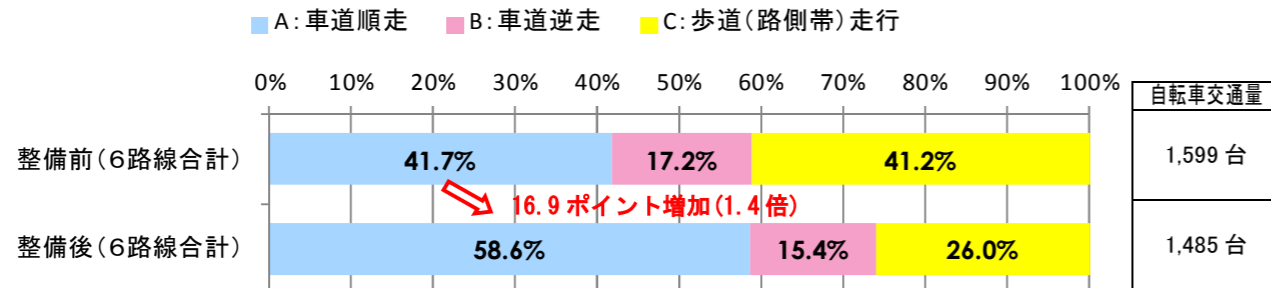
自転車の通行ルールを示す路面標示（ピクトグラム・矢羽根・文字）を整備したことにより、「通行ルールが分かりやすくなった」と約70%の方が評価している。



※アンケート調査：自転車利用者、近隣住民、通り会、町内会を対象に実施
 ※インタビュー調査：歩行者を対象に実施（「思う」「どちらともいえない」「思わない」の3択）
 図 2.1 自転車の走行位置と進行方向が分かりやすくなったと思いますか

(2) 試行整備による通行ルールを守る自転車の増加（遵守率の向上）

交通量調査結果から、車道の左側を通行するルールの遵守率が16.9ポイント増加(1.4倍)しており、試行整備による効果が確認された。



※交通量調査日 整備前：平成24年9月27日(水) 7:00~19:00
 整備後：平成24年11月15日(木) 7:00~19:00
 図 2.2 整備前後における遵守率の変化

(3) 路面標示のデザイン等についての評価

路面表示のデザインとして、文字の大きさや色彩、配置間隔等については、満足する意見が約70%あり、おおむね高い評価が得られた。

試行した路面標示方法の3つのパターンに対する意向調査結果として、ザビエル線で用いた「区画線とマーク」を評価する意見が多かった。

(4) 試行整備の拡充

自転車利用者を中心に行ったアンケート調査では65%の方が試行整備の拡充を求めている。また、歩行者を対象に行ったインタビュー調査では85%の方が拡充を求めている。

自転車利用者の意向として、車道走行による自動車との交錯等の危険性を指摘されており、歩行者からは、従前からの歩道通行する自転車による危険性が解消され、安全性が向上したという意見もみられることから、賛成意見が高くなったものと考えられる。

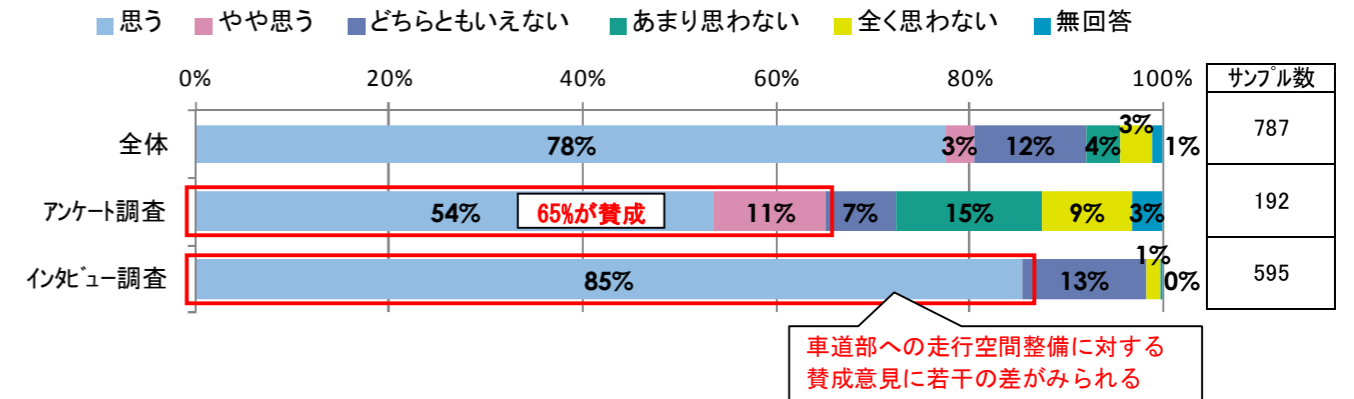


図 2.3 車道部での自転車走行空間整備を進めたほうが良いと思いますか

また、ドライバーの意向としては、歩道部への自転車走行空間整備を望む意向が47%と半数程度を占めており、道路空間の混雑や交錯の危険性等を懸念しての意見と思われる。

(5) 車道走行に対する主な意見（アンケート自由回答より抜粋）

- 歩行者に迷惑がかからないようになったが、自転車に乗る人は車にあたりそうで怖い。車がスピードに気をつけてほしいと思う。
- 自転車もマナーを守らないといけないと思いますが、きちんと区別していないと車にぶつかりそうとか心配も増える。
- 走行空間に、自動車が駐車しており、通りにくい。

3. まとめ

- 試行整備により、「自転車通行ルールの周知効果」や「遵守率の向上」が確認され、意向調査からも高い評価が得られたことから、今後、試行整備の手法を自転車走行空間整備の一つとして活用していく。
- 自転車利用者や近隣住民などからの意向として、車道走行に対する危険性を指摘する意見が多く挙げられていることから、ドライバーへ自転車は原則車道走行である走行ルールを認識してもらうなど、自動車と自転車が安全に共存できる対策に取り組むことが必要である。